



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98.3.25 No. 4758

春闘第2波スト決定 3・27千葉機関区へ

● 史上最低の回答!

本部は、春闘第二波闘争の配置を3月27日(金)に決定した。JR貨物の超低額・格差回答―ベアゼロ攻撃粉碎に向け、そして強制配転者の原職復帰、反合・運転保安確立に向けて、闘争体制をつくりあげよう!

98春闘は、主要大手単産の回答が出そろった状況だが、いずれも前年実績を大幅に下回り、「史上最低の回答」と報道される内容だ。実質賃金で言えば賃上げどころか賃下げである。しかし、連合指導部は一切闘争を構えることもなく、この回答を唯々諾々と妥結している。

JR関係でも、西日本と東海がすでに回答を行っているが、左記のとおりいずれも昨年を下回る回答だ。

【JR各社の回答状況】

JR西日本	2.91%	9,986円
(昨年)	3.00%	10,187円
JR東海	2.95%	8,600円
(昨年)	3.15%	9,073円

※ JR東海は、35歳ポイントの数値

● JR貨物の超低額・格差回答許すな!

一方、JR東日本・貨物は、24日現在、回答日すら明らかにしていない。とくにJR貨物は「ベアゼロ」を公言している状況だ。新フレイト21大合理化攻

撃も、その初年度から完全な破産状態だ。度を越した大合理化と賃金抑制のダブルパンチで、貨物の仲間たちはやり場のない怒りをののらせている。

JR貨物の経営破たんは、国鉄の分割・民営化を強行した結果生みだされた構造的な矛盾に他ならない。これを労働者への犠牲によってのり切ろうとするようなやり方は絶対に認められない。責任をとるべきは、政府であり、JR当局であり、そしてJR総連だ!

● 国労の首を切れと絶叫する貨物労

とくにJR貨物労組は今、組織的危機に大揺れ状態だ。大合理化に率先協力し、賃金抑制に協力して会社の手先となってきた結果、貨物労・革マルに対する怒りの声が職場に充満しているのだ。JR貨物労は、最後の手段として、この怒りの声を国労や動労千葉に向けている。こうやってかわそうとしているが、こんなことは、逆により一層怒りを増幅させるばかりである。JR貨物労の次の発言は、怒りなしに聞くことができない。当局の先兵II貨物労を解体し、超低額・格差回答を粉碎しよう。

● 国労組合員がまだ一九〇〇人ほどこい。これを放置したままでは、われわれの一人相撲もいとこころだ。経営陣はまなじりを決して取り組んでほしい。そうすればわれわれ

3・27春闘第2波ストへ!

● 争議対象者

- ① 千葉機関区、新小岩派出の全地上勤務者
本線乗務員のヨビ勤務者を含む)
- ② 津田沼電車区、幕張電車区(木更津支区及び派出を除く)、京葉電車区的全組合員。

● 98春闘勝利・貨物格差粉碎、強制配転粉碎、運転保安確立、第二波スト貫徹、動労千葉総決起集会

【日時】 3月27日(金) 16時~18時
【場所】 千葉機関区構内/蘇我駅・歩10分
【参加者】 勤務以外全組合員

● ベアゼロ回答等、JR貨物の新賃金回答によっては、貨物の全乗務員を対象として、戦術を拡大する。

● 全組合員を対象に所定以外の作業は一切行わない。

● 強制配転粉碎!

反合・運転保安確立

また、われわれの最大の懸案要求である。強制配転者の原職復帰、運転士資格保有者の士職登用の要求や、運転保安確立に向けた切実な諸要求についても、

れも骨身を削る。……やる気のない彼らに対するケジメは会社としてキチツとつけるべきだ。その結果生じることになるかもしれない穴については、われわれはいくらでも今の人員で埋める。人を増やせなんてことは言わない。
(JR貨物労書記長・緒方)

第一波スト直前の3月16日に千葉支社との団体交渉が行われたが、当局は何ひとつ誠意ある回答を行っていない。千葉支社は団交の席上、10年間をこす不当な差別について、われわれの追及に対し、ほとんどおし黙ったまま口を開かない状況だ。運転保安問題についても、「安全のレベルが下がっているとは思っていない」などと言った。後はほとんど沈黙したままである。こんなことを10年以上も続けているのだ。われわれは、もうこれ以上、こんな状態を許すことはできない。全力で第二波ストに決起しよう。われわれは第三波闘争もじさず闘いぬく。強制配転者を原職に戻せ! 新たな大合理化粉碎! 運転保安の危機的状況を打破しよう。